

GRIPS 開発フォーラム 意見交換会

「アフリカ資源セクターをめぐる地政学、企業と開発」

◆テーマ：「北西アフリカの資源セクターをめぐる地政学：潜在性と脆弱性が併存する中での開発のあり方」

◆日時：2014年2月6日（木）18：30～20：30（予定）

◆会場：政策研究大学院大学（GRIPS）4階 研究会室 4A

北アフリカと西アフリカは、石油やウラン、金や鉄鉱石等多くの鉱物資源を産出し、高い開発ポテンシャルを有する一方で、根深い貧困や格差の構造が、イナメナスやニジェール（ウラン鉱山）等での大規模テロや誘拐、また武器、麻薬等不法取引の急増といった地域の不安定要素を生み出す一端ともなっています。

今般、ナイジェリア等アフリカでの紛争や暴力行為、特に北部のイスラム過激派ボコ・ハラムの動向に詳しく、仏大手企業のアドバイザーも務めるペルーズ＝ド＝モンクロ氏と、西アフリカ仏語圏諸国（主にモーリタニア、ニジェール、セネガル、コートジボワール、マリ）の資源セクターや、北アフリカ・西アフリカ諸国の国境間交易と、それを資金源とし現地での基盤を固めつつあるテロ・組織犯罪集団等の動向に詳しいアンティル氏より、同地域の現状及び課題をお話頂き、企業やODAの役割も含めた自由な議論を行う予定です。

◆スピーカー：

- ・マーク＝アントワヌ・ペルーズ＝ド＝モンクロ氏（パリ第8大学教授）
- ・アラン・アンティル氏（仏国際関係研究所（IFRI）サブサハラアフリカ地域プログラム主任研究員）
- ・上江洲佐代子氏（在仏日本大使館 専門調査員）

上江洲佐代子氏による「フランスから見た北西アフリカ情勢」についてのキックオフ報告に続き、モンクロ氏とアンティル氏より、北西アフリカ地域の現状と課題について発表いただきます（各20分程度）。その後、皆様と意見交換いたします。

（司会：大野泉 GRIPS 教授）